

たはら TAHARA History Inquiry Club 歴史探訪 クラブ 其の50

絵はがき

このごろは、遠方の人との通信には、安く手軽で素早く伝えることができるパソコン・携帯電話のメールを利用する人が多いのではないのでしょうか。そんな折、手書きの葉書や手紙をいただくと、その文字から相手の人がらやペンを持った時の心の動きを知ることができます。これはメールではなかなか感じることができません。また、しよれた絵や写真が印刷された絵はがきは、文字を書くスペースが少なくても、相手に対してさりげなく気の利いたところが

良いですね。

さて日本では、1873（明治6）年の逓信省による官製はがきの発行に始まり、1900（明治33）年の私製はがき発行許可を経て、1904（明治37）年に始まる日露戦争を契機に、空前の絵はがきブームが到来します。田原市でも例に漏れず、さまざまな絵はがきが作られています。主に大正時代から戦前の観光ブームに乗っかって作られたものが多く、ほかに建設記念のものなどがあります。

現在知られる田原市の絵はがきは12種類ありますが、その中でも異



赤羽根海岸での地引網の様子『赤羽根海岸 御絵はがき』



今はもう見られない池尻川の橋『赤羽根海岸 御絵はがき』

色は、昭和5年に①商店海産部が作成した「赤羽根海岸」の絵はがきです。計7枚のうち5枚は地引網の様子で、今では観光以外では行なわれなくなつた表浜の産業がわかる貴重な資料といえます。豊かな海に生きた人たちの生き様が伝わります。また、赤羽根港ができる前の池尻川にかかる橋は、丁寧な石組みと木で作られていることがわかります。周辺の松林、橋を渡るバスの姿もレトロ口でいい感じです。こんな絵はがきが届いたらどんなに素敵でしょう。

現在も観光地や博物館・美術館では、絵はがきと一筆箋が人気商品だそうです。（増山）



郷愁漂う田原電車停留所『田原名所絵葉書(河合写真館)』



左から『県社巴江神社絵葉書(県社巴江神社社務所)』『改築記念絵はがき(吉胡神明社氏子惣代)』『田原名所絵葉書(田原観光会)』『華山先生 記念絵はがき(大塚写真館)』

生涯学習課 ☎ 23局 3531